

ふるさと奥尻通信

平成25年5月31日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

奥尻は緑の島。数週間で過ぎ去ってしまう新緑の風景。新緑から鮮やかで濃い緑へ。そろそろ濃霧が発生する時期でもありますね。霧が晴れると、眼前に緑の島が！フェリーの乗客が驚くかも。

特集 奥尻でみられる屋号

日本にある昔からのマークに家紋と屋号があります。西洋にも各家々に古くから受け継がれる紋章があり、洋の東西を問わずにシンボルマークとされる印しが存在します。

奥尻町内では、屋号を印した商店や旅館が多く目に付きますが、今回はそのうちのいくつかをご紹介します。

その前に、屋号の説明を少々。屋号は商家や豪農が取引や日常生活の上での必要性から名乗り始めたものとされます。一般的に、名字は公家、武家の他は名乗ることが許されなかったと言われていたため、庶民の各家においても、それぞれ区別するために何らかの記号や印しが定まっていたものなのでしょう。

例えば、商人であれば、高田屋、越後屋、紀伊国屋であったり、醸造業であれば、ヤマサ、キッコマン、ヒゲタなどが良く知られていますね。これらの他に、パーツを組み合わせた記号もたくさん見受けられます。山＋一で山一（ヤマイチ）、金＋森と金森（カネモリ）などと読みます。細かく言えば、これらは家印とよばれますが、一般的には屋号とよばれている場合が多くあり、今回は区別しないで扱っています。



寄贈された臼と杵(谷地の藤谷家)



奥尻の浜家(シメマル)



奥尻の川尻家(マルカ)



杵の刻印(カネナカイチ)

屋号と家紋の違いは？そもそも、屋号は家紋とは違い、家紋がその家の紋章であるのに対し、屋号は区別するための記号なのです。ですので、現代のお墓には屋号ではなくて家紋が入っているはずですよ。

一方で個人の所有物には、屋号を刻むことが多々ありました。例えば、以前に谷地地区の解体民家から寄贈された臼と杵には屋号が焼き入れされていましたし、昔よく使われた御膳一式のうち、碗の高台内には手書きで書き込まれていることが良くあります。屋号をしるすことで、似たような品物でも、誰のものであるかを容易に区別できる訳です。実際に、宮津の旧家には屋号を刻印する焼きごても残されていることが判りました。

このように近年までは、屋号が生活に密着する存在だったのです。現在では、都市部において屋号を持たない家が多い中、少し山間部に入った街や集落では、大いに役立つことを実感したことがあります。以前、東京西多摩の山間部の集落で石仏探しをしていた頃の話です。「〇〇さんのお宅はどこですか？」と訪ねたところ、同じ名字がかたまっていて、聞いても家が判りませんでした。そこで、「△△(屋号)の〇〇さんの家はどこ？」と聞いたところ、「ああ、△△はあすこだ」とすぐ判明したのです。屋号で区別がついた好例です。

なんでも、宅配便や郵便配達の仕事では、独自の配達用地図を用いて仕事の効率化をはかっているようです。また、屋号はルーツ探しの旅でも役立ちます。自分の家の家紋・屋号・家印の成り立ちを理解すると、我が家の歴史が紐解けるのです。その話は後日ということで。



刻印用の焼きごて(ジガミイチ)



宮津の長崎家(ジガミイチ)

歴史民俗資料展示室にある数ある古民具のなかで、出所がはっきりしているものがいくつかあります。そのうち、最も由緒がありそうな(実は来島の由来は不明なのですが…)ものが、この漆塗の御膳一式です。

青苗の旧家から寄贈されたもので、箱のふたには「貴人皆朱金掛膳椀壹人前 ニノ膳椀並ニ御鉢壹附 辛亥嘉永四歳六月吉日」と書いてあります。ふたの内側には屋号が大書され、右に「上ノ山町 松兵衛様行」と読めそうな添え書きがあります。この屋号は「ホシヤマニ」と読みまして、上ノ国町でニシン漁場を経営し繁栄した笹波家のものです。代々能登屋を名乗りました。嘉永4年(1851)と言えば、ちょうど6代目能登屋久右衛門の頃で、日本史では後に日米修好通商条約批准で活躍するジョン万次郎がハワイより琉球に上陸し、世界史では第1回ロンドン万博、ニューヨークタイムズが発刊するなどしています。また、上ノ国には5代目が建てたとされる建物が、国指定重要文化財「旧笹波家住宅」として現存しています。

さて、上ノ国の能登屋の御膳がなぜ奥尻に渡ってきたのか。箱の内側にある「上ノ山町」は、小樽、函館、松前などで存在した町名のように、なかなか特定はできませんが、地理的には松前が近く、なんらかの交流により、再度奥尻の旧家へ贈られたものかもしれません。

“モノに歴史あり”、なのですが、今回のように紀年銘があれば、製作・使用年代が特定できます。けれど、モノの動きに関しては、どのようにしてもたらされたものか、家人の言い伝えがなければ、なかなか判明しないものです。寄贈者から残らず聞き取ることは、資料の寄贈時に留意すべき点と言えます。



御膳(器の並びはバラバラです)



御膳箱の紀年銘

月刊 奥尻のつり 5月号

今年も春の釣りシーズン到来です！なのですが、どうも魚群は薄いようで…。桜開花がかなり遅かったのでお魚さんものんびりしているようです。それでも5月3日開催の第6回釣りフェスティバルでは、カジカ50cm、ホッケ49.4cm、カレイ44.5cm、アブラコ47.9cm、ソイ36.4cm、ハチガラ26.1cmという結果でした。奥尻チームは、全員魚種別で入賞し、ソイ身長1位となった青苗出身の増田さんが総合6位と健闘しました。去年健闘の学芸員は…まあ今年は記録係ということで。



昭和奥尻生活詩 5回 鳥賊つけに出る

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

→	ホ	爆	ノ	→	機	船	機	ド	蠅	起	今	昨	鳥
ス	オ	発	ー	→	関	入	械	ボ	黒	き	日	雨	賊
ラ	キ	す	ズ	→	開	潤	の	ン	く	て	は	吹	つ
ン	ル	ル	ル	→	顔	音	走	ド	落	み	吹	雪	け
バ	光	が	か	→	真	気	つ	ボ	ち	ち	と	て	に
ー	る	廻	ら	→	黒	持	て	ン	る	と	あ	み	出
イ	ル	行	く	→	と	来	る	ボ	る	あ	たら	ら	る
→	ス	タ	キ	→	言	つ	て	ン	聞	ら	道	下	久
→	度	に	に	→	油	ち	つ	あ	と	え	る	一	
				→	で	チ	た	ら	る				
				→	カ	カ	た	ら	る				
				→	チ								

奥尻方言をちりはめて完成した奥尻かるた完成！

奥尻方言をちりはめて完成した奥尻かるた完成！

奥尻方言をちりはめて完成した奥尻かるた完成！



寄贈品の一部(碗)

寄贈品に歴史あり

寄贈品に歴史あり

寄贈品に歴史あり

ようやく魚きました！手始めにガンケでカジカ52.5cmを釣り、先日は宮津港でホッケ、カレイ、ソイなど5魚種15匹の大漁。港のカレイは少なめですが、44~47cmが時たま出ていますよ。島内、マスメディアの取材が多くなってきましたね。7月12日に向けて、色々報道がなされるのでしょう。お茶の間に元気な島民の姿を見せたいです(しんたP)。

新米之記録(編集後記)

稲穂の花壇整備中

稲穂の花壇整備中

稲穂の花壇整備中



奥尻小学校相撲大会(昭和43年)